

## 『ID Business and Social Model Research Lab』設立趣旨

社会に個体識別技術を導入するのではなく、  
社会に個体識別技術で価値を届けるために



國領二郎

ID Business and Social Model Research Lab代表  
慶應義塾大学環境情報学部教授

RF-IDに代表される個体識別技術が、ネットワークやデータベースと組み合わせられた時、消費者に対して大きな価値を提供できる展望が生まれます。きめの細かい物流管理による安全な商品の供給、生産・流通履歴の消費者への提供による安心感の醸成、個々の顧客にカスタマイズされた便利なサービスの提供などが例としてあげられますが、他にも秘められた多くの可能性があることでしょう。この機会に的確に応えられる企業にとってはビジネスチャンスといえますし、非営利部門にも質と効率の高い社会システムの構築機会を提供してくれます。但し、価値を確かなビジネスや非営利サービスとして消費者に提供するためには、事業モデルの確立やプライバシー問題への対処、標準化体制の確立など、いくつかの重要な課題に 대응していかなければなりません。

本ラボではRF-IDだけでなく、多くの個体識別技術の可能性を検討した上で、それらを基盤としたビジネス・社会モデルの未来像を展望したいと思います。我々にとっても未知の世界の探訪ですが、一緒に未来を切り拓く活動を推進させていただくことを楽しみにしております。

## アドバイザーボードメンバー挨拶

根来龍之

早稲田大学IT戦略研究所所長・商学部教授

ID-BUSの活動は、日本企業の沈滞ムードを打ち破る一つの力になると期待しています。日本企業の再建は、新しい技術、新しいビジネスモデル、新しい社会モデルを必要としています。それらが絡み合って、新しい「模倣困難」なモデルが構築された時に、日本企業の本格的な再生が可能になると思います。

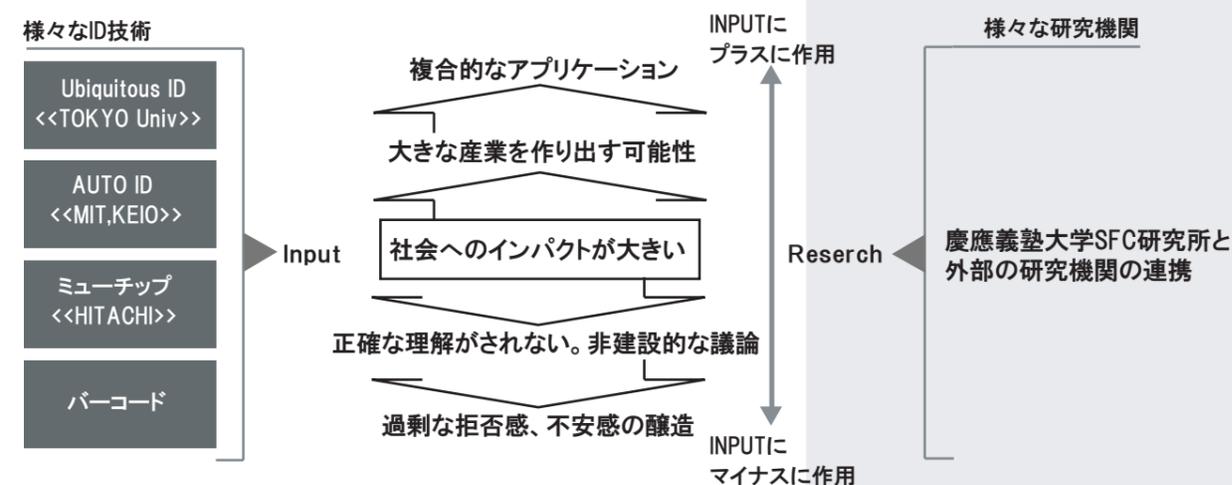
固体識別技術は、まさにそのきっかけになるものでしょう。もとより、これは外国企業を排除するという意味ではありません。外国企業と対等に競争しながら、あるいは外国企業と連携しながら、独自の競争優位を築く日本企業を目指すものです。

## 2003年～2004年度研究体制

ビジネスモデルという観点でID技術を捉える学術研究者ネットワークへようこそ。  
本LABは3つの基本運営方針を機軸としています。

1. ビジネスモデル志向でID技術を捉える  
国内外の研究者が慶應義塾大学SFC研究所を事務局として研究者ネットワークを構築、ビジネスモデル視点で新技術＝ID技術に示唆を加えていきます。
2. 産業界の皆様とのコラボレーションを推進する  
LABは、産業界の皆様とマーケティング、ロジスティクス、法制度、産業政策など多岐のテーマに渡り最新研究動向のフィードバックを目的として適宜交流会を開催します。
3. ビジネスモデルとテクノロジー両面の理解の場を提供する  
最大の産学コラボレーションの場である『リサーチワークショップ』は、学術研究グループからの知見を基盤に、ビジネスモデルの示唆を主要テーマとする、「ビジネスモデルトラック」と既存の識別技術とAUTO-IDなど最新個体識別技術(無線タグ技術)を比較検証するテクノロジートラックから構成されます。

Lab設立の目的は、ID(固体識別)技術の可能性を最大に生かし、  
かつ社会的に受け入れられるビジネス・社会モデルの開発



## 共同研究費

年会費 1口100万円 (2003年度分は、半期分50万円)

《上記年会費に含まれるもの》

シンポジウム/リサーチワークショップ【年10回程度予定】の優先参加(上限4名様迄)

『ID Business and Social Model Research Lab』年次報告書

※ ワーキンググループ、実証実験に関しては、

別途主査指定の費用負担が発生する場合があります。